

📖 今月のおすすめ本 📖

『生きるための絵本 命生まれるときから命尽きるときまでの絵本127冊』

著者名 正置 友子
出版者 風間書房
出版年 2023
分類番号 019.53/マ

この本は、50年前に私設文庫を開設して以来、多くの絵本に関わってきた作者が「蒸留されたように浮かび上がってくる絵本」について、その一冊一冊のエピソードを混じえ紹介しています。また、口絵として127冊の絵本の表紙がカラーで掲載されています。

乳児、幼児、小中学生思春期など年代別のほか、おとなを対象とした章もあります。生身の人間の声を聴くことが少なくなった現代、絵本は1人で本を開いて読むだけでなく、他の人に読んでもらうことで共生の芸術としての可能性がある、その有効性も述べています。そして子どもたちには、よりよい未来の構築のために、他者と共生する人になってほしいという願いもあるようです。

絵本には人間の本質を見つめ未来に思いを込めたまなざしを向けているものがあり、読者に対し生きていくために大切なことを伝えてくれると言っています。慌ただしい毎日に、ちょっと絵本を読んでみませんか。

📖 この本に登場する絵本です

『いないいないばあ』 【726.6/マ】
松谷 みよ子(1981)童心社

『フェミニスト紫式部の生活と意見 現代用語で読み解く「源氏物語」』

著者名 奥山 景布子
出版者 集英社
出版年 2023
分類番号 913.36/オ

源氏物語は千余年を経ても読み継がれている物語ですが、この仮名主体の文章は当時「おんなこども」のもので、今でいうサブカルチャーに相当するものでした。しかし源氏物語の人気は女性だけのコミュニティにとどまらず、時の天皇までが読むほどになりました。本書の作者曰く、ジェンダーやセクシュアリティといった概念や言葉が存在しない時代ですが、源氏物語には現代のフェミニズムに近い感覚が多く含まれ、その問題意識や批判的姿勢が今に通じていると言っています。本書では、そのようなジェンダーの視点から源氏物語を解き明かしていきます。

作者紫式部が光源氏に与えた女性の扱いについてのルールが当時としては珍しいことや、ルッキズム、平安時代のおひとりさま問題、当時のミソジニー空間など、様々な切り口で説明しています。

また、源氏物語はどの巻に登場する女性もバッドエンドなストーリーに満ちていますが、紫式部はただ嘆くだけで終わるのではなく、最後に宇治十帖を書くことにより、ナラティブな視点でその救いや男女のコミュニケーションの可能性を示唆していると指摘していて、とても興味深いです。

源氏物語にはよく、年を経て読むとまた違った発見があると言われていますが、現代まで読み継がれる理由には、この物語にその人の人生でも その時代時代でも 新しく発見する何かがあるからなのかもしれません。本書は新しい視点からの魅力が発見できる本です。

📖 紫式部や平安時代など

『紫式部の欲望』【913.3/サ】

酒井 順子(2011)集英社

『女子大で『源氏物語』を読む 古典を自由に読む方法』【913.36/キ】

木村 朗子(2016)青土社

『平安朝の女性と政治文化 宮廷・生活・ジェンダー』【210.36/フ】

服藤 早苗／編著(2017)明石書店

『「自分の意見」ってどうつくるの？ 哲学講師が教える超ロジカル思考術』

著者名 平山 美希
出版者 WAVE出版
出版年 2023
分類番号 130/ヒ

本書の目的は、自分の意見をつくることに苦手意識を持っている人たちに、考え方のヒントを提供することだと書かれています。「自分の言葉」で意見を述べるには、まず自分の考えが必要です。また自分の思ったことを自由に主張していい、あなたの意見は誰かに聞かれるのを待っているのです。ここでは、フランスで物事を考えるときの土台になっている「フランス式思考法」を紹介しています。フランスでは、お互いの意見の違いをはっきりさせ それぞれの主張を明確にしますが、日本では相手の気持ちを一旦は受け入れ他者との調和をまずは大切にするという違いがありますが、どちらが良い・悪いということはないです。ただ、「どうしてそう思うの？」に対し「なんとなく」というのは何も考えていないと相手に思われてしまいますし、「察する文化」、つまり日本的に相手に察してもらうと、相手の理解のズレを生みかねません。自分の言葉に対して意識的になる事がまずは大切です。それをふまえて、「問いを立てる」「言葉を定義する」「物事を疑う」「考えを深める」「答えを出す」という5つのステップで自分の意見を組み立てる方法を分かりやすく紹介しています。そして「考えない人」が増えると、自分の意見と違う方向へ行動させられるかもしれないと警鐘を鳴らしています。それだけ自分の頭で考え、意見を持つことが大切なのです。皆さんも、じっくり自身の意見や考え方について思い巡らしてみるのは如何でしょう。

☐ アサーティブ(assertive)は、「自己主張すること」という意味です
『アサーティブ・コミュニケーション』【336.49/ト】
戸田 久実(2022)日経BP日本経済新聞出版
『セルフ・アサーション・トレーニング』【146.816/ス】
菅沼 憲治(2017)東京図書